

新潟県公立文化施設協議会技術研修会

**公立劇場における
舞台芸術を支援・創造する音響家になるために**

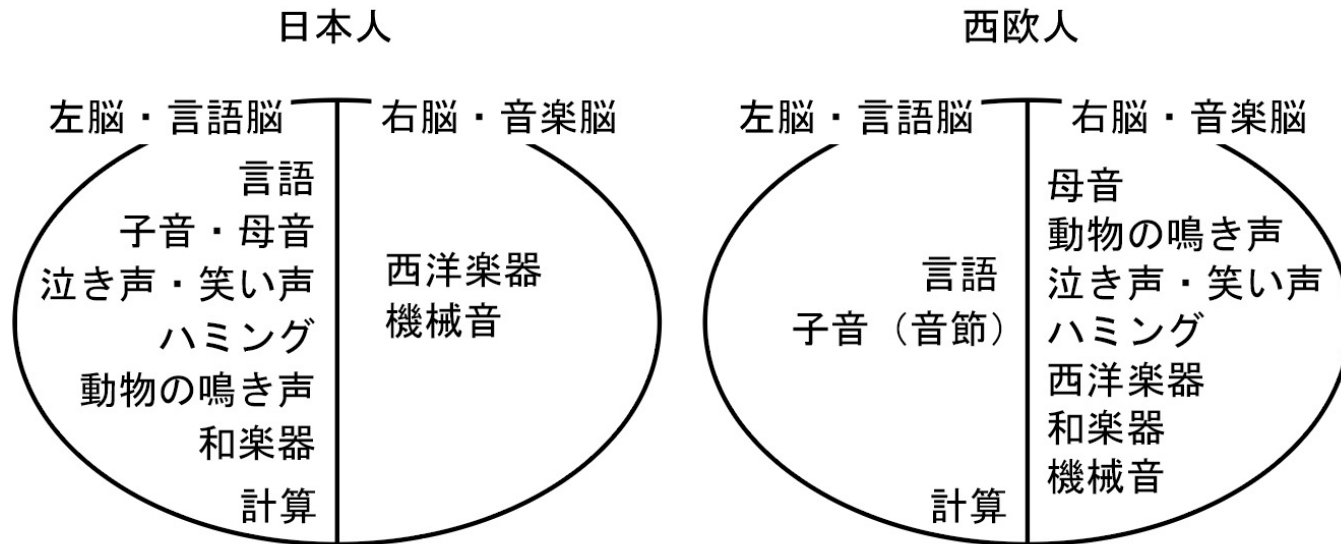
舞台人としての音響家

八板 賢二郎

(ヤイタ ケンジロウ/ザ・ゴールドエンジン主宰)

日本人特有の音意識

- 日本は母音文化
- 環境によって好む音は異なる
- 言葉の違いで考え方が異なる

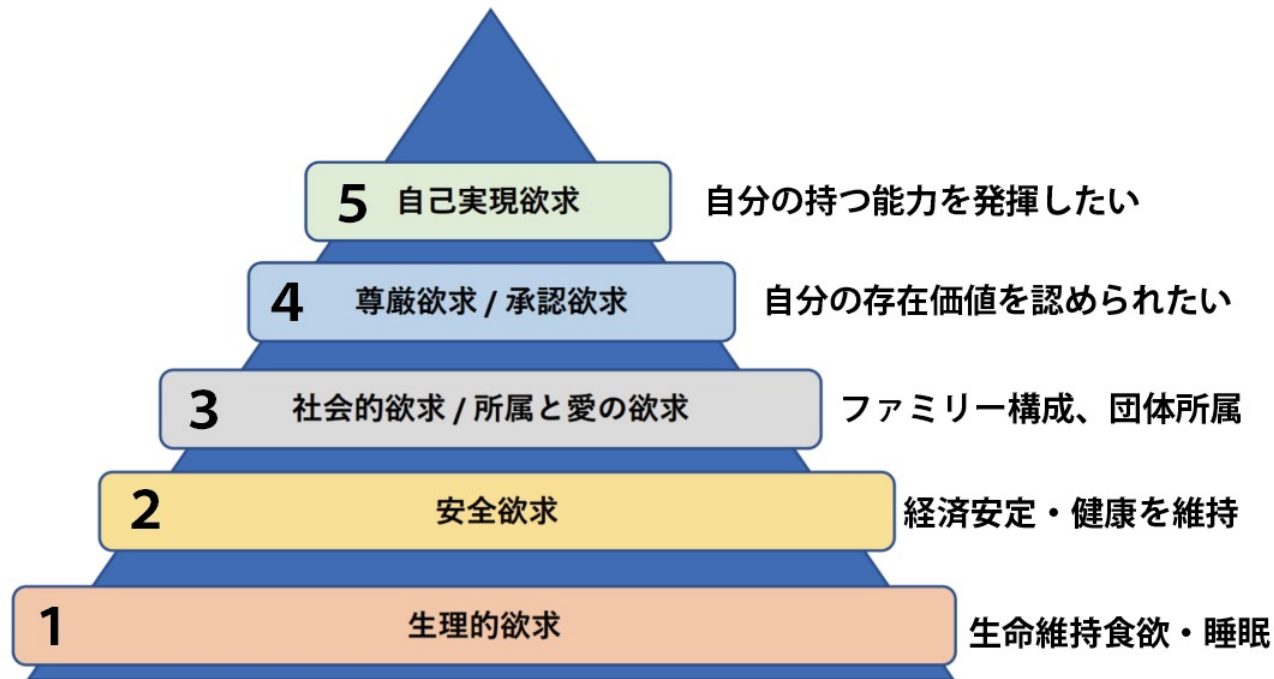


人々はなぜ、劇場にやって来るのだろう？

楽しいこと、美味しいものを
共有する喜び！

マズローの欲求5段階説との出会い

人間の欲求は5段階のピラミッドのように構成されていて、低階層の欲求が満たされると、より高次の階層を欲求する。



仕事との向き合い方

- “何のため、誰のため” を常に考えて計画・実行をする。
- 非日常の世界を創造して観客を感動させる。
- ディズニーランドのように日常を見せない。
- 劇場の観客席に時計は不要＝外の世界を忘れさせる。
- 安全第一。理屈では解決しない。

裏方というもの

- 自分は目立たない。
- 主催者・演出家
俳優またはミュージシャンのために役立つ仕事。
- そして認められること。

いい音って何だろ (プロとして)

- 機器の性能だけではない。
- 疲れない音、演目に調和した音、役にたっている音
- 報酬を貰える音

創造 / Creation

- 創造 = それまでになかったものを初めてつくり出すこと
- センス = 物事の微妙な感じや機微を感じとる能力・判断力
- 想像 = 頭の中に思い描くこと。
- 観察力 = 物事の様相を見極め、そこにある事情を知る力
- 媚びるな = 気に入られようと振る舞うことはNG

創造力を養うために

好き嫌いをなくして、
あらゆる芸術作品と向き合う

批判的でも良い

演劇は創作するもの = 知識 + 知恵 = らしく

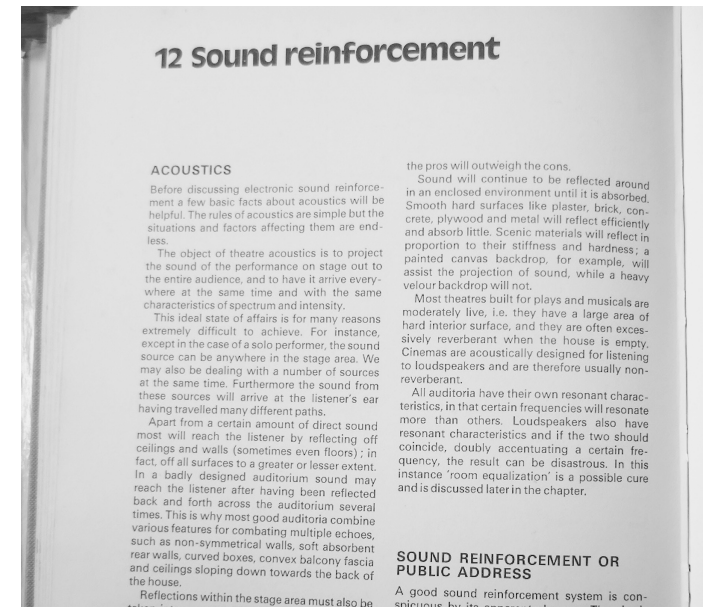
SR (Sound Reinforcement) & PA (Public Address)



昔のJAL機内 (Yクラス)



今のDELTA機内 (Cクラス)



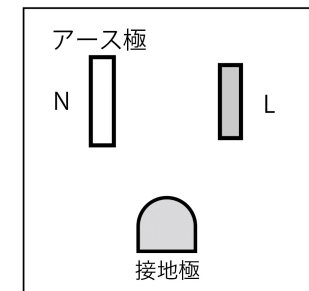
米国出版の書籍

音響機器の性能発揮

- 時差、干渉からの回避。
- Simple is the best
- 余計な機器の使用を避ける。バックアップは必要。

音響機器の性能向上

- 電源の重要性を知るは、機器の本来の性能を維持するのに不可欠。
- 発電所から送られてくるAC電源をDCに直して回路を動かす。
- 途中で様々なノイズが入り込む。
- ノイズを逃がすのがアース（ground／接地）
- AC 100Vのコンセントには極性がある。使用する音響機器の電源極性を揃えることで、機器の性能を向上できる。
- 音響機器は独立した専用アースを設ける。



乗り込みの音響の考え

- SRを使用しないで生演奏にすると、不要な人材になる。
- ツアーの場合は、何処の会場でも同品質の音にしたい。
- 短時間に仕込み、サウンドチェックを済ませたい。
- 劇場の機器が不安。理解してあげてください。

そこで生まれたのが優良ホール百選

優良ホール百選

～設備の善し悪しではない～

- 舞台設備が十分に維持管理されていて、うまく機能している。
保守・修理・清掃等が十分に行われ、機材リストにある機器を常時使用できる状態にしてある。
- 運用スタッフが十分な技術力を持っている。
- 運用スタッフが高いモラルを持ち人格的に優れていて、ホールで上演される芸能に精通し、優良な上演ができるように外来スタッフに対して協力的である。
- スタッフ間の十分な意思の疎通があり、円滑かつ安全に業務を行っている。
- 利用受付から上演・撤収まで、利用者に対する運用スタッフの対応が良好である。

[一般社団法人日本音響家協会制定]